

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093200113		
法人名	株式会社裕生堂		
事業所名	陽だまり倶楽部東大利		
所在地	福岡県大野城市東大利3丁目11-28 (電話) 092-589-5675		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 14 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様おひとり、おひとりが自分らしく生活して頂けるような環境づくりを心がけています。コロナ禍の影響で殆ど外出する機会がない為、季節の移ろいを感じて頂けるよう、施設内の飾りつけをして季節行事等一緒に楽しんで頂いています。感染予防の為、面会も制限しており、ご家族様にも信頼を頂き、安心して頂けるよう日常の生活の様子を毎月のお便りと写真でお知らせしています。ご家族様から「日頃の様子がわかり嬉しいです」とのお声を頂いています。又、心身の変化にも細心の注意を払い、協力医療機関とも連携を図りながら支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 31 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は西鉄の駅から徒歩5分の位置にあり、静かな住宅地に囲まれた2階建ての建物で、1階に玄関があり2階が事業所になっている。職員の年齢層は様々で、利用者に近い年代の方もおり、利用者とのコミュニケーション等、それぞれの職員の強みを活かしながら職員全体で支援している。施設の生活をより楽しくできるようにレクリエーション委員を決めて取組を始めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業部統一の理念をかかげ、職員が常に目にする所に貼り出し意識付けを行い、日々のケアを行っている。	法人・事業所の理念があり、職員が目につく事務所・更衣室に理念を掲示している。理念に沿い、利用者一人ひとりの状態にあった支援を行い、近所の人からの相談も受けられるようにしている。毎月のカンファレンスで理念を唱和し、内容の再確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、コロナ禍の影響で実施できていないが、小学校から送られたコスモスリレーの花は綺麗に咲かすことができた。	コロナ禍で地域活動は行われてないが、昨年、小学校からコスモスの種をもらい花を咲かせるコスモスリレーを行うことができた。今後も感染予防に努めながら地域との繋がりを作っていく予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所の意見交換会、市等主催の地域交流会の参加もコロナ禍の為実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、会議は書面決議の形を取り、事業所の出来事、利用者状況、取り組み等の報告を行い、ご意見を踏まえサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は書面で行っており、資料と共に返信用の用紙も同封して意見を伺うようにしており、利用者の状況等やヒヤリハット報告を行っている。また、出された意見は、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、意見交換会や連絡会の参加はできていないが、運営に関する相談などは市担当者で連絡をとっている。	日頃から制度などについて市町村の担当者へ相談したり、協力関係を築きながら、いつでも連携が取れるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より身体拘束における弊害を理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	外出傾向がある利用者を把握し、職員が付き添うなどの支援をしている。身体拘束に関する研修は年間計画に組み込んでいるほか、隔月開催している勉強会でも理解を深める機会を設ける等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を通し、スタッフの何気ない言動や行動が虐待につながる可能性がある事等の認識と意識向上を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、生活保護の方は入居されていないが、必要性を理解し、関係者やご家族様と話をするようにしている。	制度に関する説明は、契約時に行う介護保険についての説明と併せて行っている。必要時や相談があった時に説明したり、制度へ繋ぐ事が出来るように、職員がカンファレンス時や勉強会で制度に関して学ぶ機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様へは、十分にご理解頂けるよう丁寧に説明を行い、契約を結んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケア内容などご家族様とやりとりする機会に要望をお尋ねしたり、利用者様の状況をお伝えするよう努めている。	介護支援専門員がモニタリングを行う時や職員が日常の中で一人ひとりに向き合える時間に意向の聞き取りを行っている。パン食の希望があった時には行事食での対応ができないか等を検討して実践している。家族には電話連絡があった時等にご意見を頂くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在の問題点をスタッフ全員で共有し、管理者会議にて議題として持ち込んで、本部へ意見を上げる仕組みを作っている。	毎月の勉強会をはじめ、日頃から職員が主任へ相談し管理者へつなげてもらう、あるいは直接管理者へ相談することもできるような環境づくりに努めている。手すりの設置や浴室の滑り止めマットやスライディングボード等の購入について提案があり、介護に活かしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回行われる管理者会議にて取り組みや努力、実績等の把握をし、評価制度や社内表彰制度などを含め、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用については性別、年齢等に関係なく人柄や熱意など判断材料としている。スタッフの個々の得意分野を活かした働き方を心掛け、協力しあって仕事に取り組めるようにしている。	募集に関しては、法人本部が行っている。年齢や性別等を理由に対象から外すことはない。資格取得のための支援や育休・介護休暇もあり、家庭の事情でシフトの調整をしたり、レクリエーションを職員ができるように管理者が実際に行い、見て学んでもらうようにするなど、職員が働きやすい環境の整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念にあるように人材を尊重したケアを行っている。研修受講者からの伝達講習等も行っている。	外部研修を受けた職員が、勉強会で他の職員に研修内容を伝達している。資料等は職員がすぐに内容を確認できる場所にファイルして設置されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修、グローイングアカデミーでのネット研修を受講し、伝達講習等を通して職員のレベルアップを目指している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修受講時等に他事業所の管理者の方々と情報交換行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所初期はいかに不安を取り除くか施設に慣れてもらえるように傾聴し、関係構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や契約前後にご家族様の不安や要望を聞き、信頼してもらえる様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様が必要としていることを見極め、アプローチし、対応できるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを密に図り、会話しやすい関係づくりに努め、ご本人ができる洗濯物たたみや手作業など役割を持って頂き、しっかり感謝の意をあらわすようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活歴を大切にしながらスタッフ全員で情報を共有し、管理者、ケアマネを通してご家族様、利用者様にしてほしい事や思いを考えながら連絡を取り合っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた方々のことを忘れてしまわれないように、ご家族様のことや若い頃の話も引き出したり、関係性をご家族様に確認した上で電話や手紙の対応もしている。	毎日のケアの中で、馴染みの人や場について話を聴き取るようにしている。友人・知人からの電話や手紙での連絡を取り持ち、電話等や手紙を取り持った後で利用者が不穏にならないように、必要に応じて家族等と連絡を取り合う等、関係が途切れないように支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、事前にトラブルを防いだり、コミュニケーションの手助けをしている。体操やレクリエーション等を通し、一緒に過ごす場所、会話や空間を楽しめるように配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	異動がなく、ご逝去にての退居であり、現在その後施設から連絡は控えているが、相談あれば対応する予定である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の言葉に耳を傾け希望を聞き取ることに努め、言葉にできない方は表情やしぐさを観察し、何を求められておられるのか観察を行い、ケアマネに報告・相談している。	担当制を採らず全職員で全利用者に関わっている。全職員が利用者に適切に関わっていくことが出来るよう、日頃の利用者との関わりの中で利用者から聴いた事や気付いたこと、家族や関係者から聴き取りした情報等は職員間で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりを把握することの重要性をご家族様にお話し、ご本人やご家族様から聴き取りを行い把握している。生活歴を参考に自分らしく生活していけるように援助している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	病状やADLの変化、言動、行動など適宜観察し、変化があれば、申し送りノートや経過記録にてスタッフで共有、把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	積極的な情報収集に努め、主治医への相談も行い、状況により見直しを行いながらニーズに応じた介護計画を作成している。	職員からの意見やかかりつけ医からの医療情報、利用者や家族から聴き取った意向などを集約した原案を担当者会議で検討し、介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状況を記録し、スタッフ全員が共有しケアができるようにし、積極的な情報収集をし介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや入院中の衣類、洗濯等のニーズに対して柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービス相談員の訪問受け入れは現在休止中だが、2ヶ月に1回訪問理美容のサービスを行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望がない場合、事業所の協力医療機関を紹介し、月2回の往診の契約を結んでいる。ご本人の体調をみながらご家族様の要望を踏まえ、協力医療機関の相談、受診を行い体調管理を行っている。	契約時に、施設には協力医療機関があること、協力医療機関からどのような医療が得られるか等を説明し、入居後のかかりつけ医の選択は利用者、家族が行っている。家族が受診に付き添う際にも、状態によって職員が同行したり、職員だけで受診支援をすることもある。家族等と受診時の情報の伝達方法等について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用様の変化や気づきをスタッフ間で共有し、看護師や訪問看護師に報告・相談し適切な対応ができるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には細やかな面会を心掛け、ご本人の様子観察や早期退院に向けての情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を定め、ご本人やご家族様に入居当初から事業所が対応し得る最大限のケアについて説明を行っている。看取りについては、主治医と連携を図りながら支援体制を整えている。	契約時に、施設の重度化・終末期の対応について説明した上で、終末期に受けたい医療や終末期の過ごし方について、利用者や家族の意向を確認している。利用者の状態の変化に応じて、随時、関係者間で改めて意向や方向について確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを参考に対応力向上の為に勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを元に年2回の防災、災害訓練を入居者様と一緒に実施している。地域との協力体制は今後の課題	火災・自然災害・防犯に対応したマニュアルがあり、火災を想定した避難訓練を重点的に行っている。BCP（業務継続計画）も災害用とコロナ用が整備されている。災害避難時の備蓄品も整えられつつある。地域との協力体制が組み込まれた避難訓練は検討されていない。	避難訓練に地域の協力が得られるよう働きかけて欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応を行っている。スタッフ間で言動や行動を助言し合える雰囲気づくりに努めている。	利用者の尊厳とプライバシーの保護については、介護に携わる者として特に気をつけるべき大切な問題として、年間の研修計画で毎年取り入れている他、状況に応じてカンファレンスでも話し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができる方には直接しっかりきくようにし、自己決定できにくい方には表情の変化や仕草などを観察し寄り添えるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールに当てはめるようなケアにならないよう配慮し、ご本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に共用の化粧水やブラシ等を置いて、いつでも整容できるようにし、モーニングケア時にはホットタオルを活用している。ご家族に協力をあおぎ、ご本人お気に入りの服や物の持ち込みも行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生面や安全面からも一緒に準備する事は少ないが、下膳が出来る方には協力頂いている。飲み物などは好みを把握し対応している。	法人が作成した献立に添って汁物や副菜の具材が届き、事業所で調理して提供している。調理場はリビングに直面しており、職員はリビングや利用者の様子を見ながら調理や盛り付けることができる。職員は利用者の嗜好を把握し、おやつを手作りする等、食事を楽しむことができるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、食器、スプーン等を工夫しながら、毎食時の摂取量を記録し、月1回体重測定を行っている。摂取状況や体重増減等スタッフ間で情報共有している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状況に合わせ、声掛けやセッティングなど支援している。訪問歯科医からの口腔ケアについての助言も受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、声かけをしながらトイレ誘導を行っている。使用パッドの見直しを行い、出来るだけ不快な状況にならない様支援している。	広さや便器、手すりなどの取り付け状況の異なるトイレを4つ設置し、それぞれの利用者が使い易いトイレを使用する等、トイレで排泄する生活を続けられるよう支援している。利用者の排泄状況に合わせて使用するパッド類も調整している。パッド類の変更については家族に説明し、同意を得て使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談しながら、出来るだけ薬に頼らず自然排便を促せるよう水分補給や乳製品等も活用しアプローチしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	現在、週2回の入浴を実施している。入居者様の意向を聴きつつ、出来るだけ入浴を楽しんで頂けるよう支援している。拒否の方には、毎日の声掛けをしながら、ご本人様の望むタイミングで入浴できるよう支援している。	施設のスケジュールに合わせた入浴ではなく、利用者のタイミングに合わせた入浴となるよう、お風呂は毎日用意し、週に2回ほど入浴できるように取り組んでいる。自宅で使用していた入浴用品を入居後も使用する利用者もいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間やソファでくつろぐ時間を設けている。それぞれの睡眠パターンを理解し、ストレスをかけないような環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をみて疾患の把握、それに対する薬の処方、効能、副作用など理解するように努めている。臨時薬や変更時は速やかに情報共有を行っている。服薬支援は手順通りに行い、確実に服薬できるようにしている。経営母体である調剤薬局の薬剤師からの支援も受けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を踏まえ役割をもって頂き、活性化に努めている。体操やレクリエーション活動を通し、気分転換を図り施設生活を楽しくで頂けるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出は控えている。敷地内の散歩を行っていた時期があったが、現在は行っていない。	コロナ禍で、受診以外の外出行動を控えているが、天候が良い時は外に出て敷地内を散歩するよう努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に施設管理する事を説明し、ご家族様も了承されている。入居者様から所持の希望があった時はご家族様に確認し了承頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話や手紙には対応しているが、混乱等を招いた事もあり、入居者様の状況を踏まえ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度管理を常に行い、採光にも配慮している。食事中はインストゥルメンタルCDを流し落ち着いて食事できる環境づくりをしている。レクリエーション係を中心に玄関ホール、食堂などに、季節の飾りつけをして誕生日記念撮影ブースも設けている。	施設内の床は板張り、落ち着いた暖かい印象を与えている。リビングの椅子の脚にはカバーが付けられており、椅子を動かす際には滑らかに摩擦音なく行える。リビングの窓は掃き出しになっており、外からの十分な陽射しがあり、カーテンで調整している。リビング廊下側の壁には大きな窓が取り付けられており、開放感を感じさせる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の悪さを感じておられないか目を配り、気持ちが落ち着くような環境づくりに努めている。必要時は居室で過ごして頂いている。利用者同士の相性等に留意し、トラブルにならないよう席の配置等に配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等ご家族様からご本人様のなじみの物を持ちこんで頂けるようお願いしている。必要ない物など調節しながら整理整頓に努め、安全面にも配慮しながら、居心地のよい環境づくりを心掛けている。	居室には、ベッドやエアコンが備わっており、馴染みの家具や思い出の品を持ち込むことができる。また、ベッドの向きを利用者の身体状況や動線に合わせて配置する等、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の案内や動線上の安全が確保できるよう、家具などの移動等もその都度行い、アクシデントにつながらないよう配慮している。浴室の手すりなど不足している所は会社側に稟議をあげ整備を進めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		